

## 分野:器官系統病態学

主科目 副科目	下部消化管外科学 Colon and rectal surgery	DM_1429	区分	選択必修	授業形態	演習 (講義・実習含む)
------------	--------------------------------------	---------	----	------	------	-----------------

担当	教授	准教授	講師	助教	客員教授・その他
板橋	◎橋口 陽二郎	松田 圭二 野澤 慶次郎 (病院准教授)		小澤 毅士 端山 軍 島田 竜	
ちば	◎幸田 圭史		小杉 千弘	雄井 彰大	
-					

	下部消化管外科学Ⅰ (1年次)				下部消化管外科学Ⅱ (2年次)				下部消化管外科学Ⅲ (3年次)			
	単位	4単位	配当年次	1年・通年	単位	4単位	配当年次	2年・通年	単位	4単位	配当年次	3年・通年
概 要	<p>① 指導医のもと病棟主治医としてベッドサイド教育、他科からのコンサルテーションを履修する。同時に講義、演習、実習を修学する。</p> <p>② 上部消化管、肝胆膵、胸部外科、心臓血管外科、その他(乳腺外科、内分泌外科、小児外科など)を一定期間履修し副科目とすることができる。</p>				<p>① 講義、演習、実習、外来実習にて臨床経験を継続するとともに、指導医のもとに実験に従事する。</p> <p>② 上部消化管、肝胆膵、胸部外科、心臓血管外科、その他(乳腺外科、内分泌外科、小児外科など)を一定期間履修し副科目とすることができる。</p> <p>③ 毎月一回、木曜日夕方の内科との合同消化管カンファレンスを副科目とすることができる。</p> <p>④ 毎月一回、月曜日夕方の内科・病理・放射線科とのがんセンターボードを副科目とすることができる。</p>				<p>① 講義、演習、実習、外来実習にて臨床経験を継続するとともに、指導医のもとに実験に従事し学会発表する。</p> <p>② 毎月一回、内科との合同消化管カンファレンスを副科目とすることができる。</p> <p>③ 毎月一回、内科・病理・放射線科とのがんセンターボードを副科目とすることができる。</p>			
到達目標	<p>① 下部消化管疾患による症状に対して診断確定までの的確な検査計画を作成できる。</p> <p>② 各種の検査結果からの的確に下部消化管の悪性疾患および良性疾患の診断ができる。</p> <p>③ 下部消化管疾患の診断に必要な検査を行うことができる。</p>				<p>① 下部消化管疾患に対する手術を行うことができる。</p> <p>② 専門性の高い外科的診断および治療方針について、各領域からのコンサルトに対応できる。</p>				<p>① 下部消化管疾患に対する高度な手術を行うことができる。</p> <p>② 専門性の高い外科的診断、治療方針について、各領域からのコンサルトに対応できる。</p> <p>③ 外科的診断、治療を通じての精度管理、倫理的事項への対処、医療安全上の諸問題への対処が指導的立場で行える。</p> <p>④ 外科学における最新の診断、治療に関する治療情報を発信できる。</p> <p>⑤ 学会発表を行う。</p>			
事前事後学修	<p>① 英語の学習、英語論文を読む。</p> <p>② プレゼンテーションソフトウェアを習得し試用できるようになる。</p> <p>1回の授業に対して、予習・復習それぞれ30分程度が必要である。</p>				<p>① 英語の学習、英語論文を読む、英語論文の要約ができる。</p> <p>② 統計ソフトウェアを用いて簡単な統計解析ができる。(t検定、分散分析など)</p> <p>1回の授業に対して、予習・復習それぞれ30分程度が必要である。</p>				<p>① 英語の学習、英語論文を書けるようになる。</p> <p>② 統計ソフトウェアを用いて高度な統計解析ができる。(生存分析、多変量解析など)</p> <p>1回の授業に対して、予習・復習それぞれ30分程度が必要である。</p>			
評価方法	<p>受講態度 40% (発表、課題提出、出席状況等)</p> <p>理解度 30% レポート 30%</p>				<p>受講態度 30% (発表、課題提出、出席状況等)</p> <p>理解度 30% レポート 40%</p>				<p>受講態度 20% (発表、課題提出、出席状況等)</p> <p>理解度 30% レポート 50%</p>			

## ■主な演習(講義・実習含む)

	下部消化管外科学Ⅰ (1年次)	下部消化管外科学Ⅱ (2年次)	下部消化管外科学Ⅲ (3年次)
板橋	月曜日 7 : 45 ~ 8 : 15 下部消化管疾患の薬物療法	月曜日 7 : 45 ~ 8 : 15 下部消化管疾患の薬物療法	月曜日 7 : 45 ~ 8 : 15 下部消化管疾患の薬物療法
	月曜日 9 : 30 ~ 17 : 00 手術技術基礎	月曜日 9 : 30 ~ 17 : 00 手術技術	月曜日 9 : 30 ~ 17 : 00 手術技術
	火曜日 7 : 30 ~ 8 : 30 臨床症例検討会	火曜日 7 : 30 ~ 8 : 30 臨床症例検討会	火曜日 7 : 30 ~ 8 : 30 臨床症例検討会
	水曜日 13 : 00 ~ 14 : 00 手術に必要な下部消化管の解剖と生理機能	水曜日 14 : 00 ~ 15 : 00 下部消化管に対する腹腔鏡下手術	水曜日 13 : 00 ~ 14 : 00 化学療法、放射線治療、分子標的薬の進歩
ちば	月曜日 13 : 00 ~ 15 : 00 下部消化管内視鏡の手技Ⅰ	月曜日 13 : 00 ~ 15 : 00 下部消化管内視鏡の手技Ⅱ	月曜日 13 : 00 ~ 15 : 00 下部消化管内視鏡の手技Ⅲ
	月曜日 9 : 00 ~ 17 : 00 下部消化管手術(開腹・腹腔鏡)	火曜日 9 : 00 ~ 17 : 00 下部消化管手術(開腹・腹腔鏡)	金曜日 9 : 00 ~ 17 : 00 下部消化管手術(開腹・腹腔鏡)
—	曜日 : ~ :	曜日 : ~ :	曜日 : ~ :
	曜日 : ~ :	曜日 : ~ :	曜日 : ~ :
	曜日 : ~ :	曜日 : ~ :	曜日 : ~ :

## 教科書・参考書

標準外科学、TEXT外科学、大腸癌取扱規約、大腸癌治療ガイドライン、外科学概論(第4版)南江堂

## その他履修上の注意事項

研究活動において基礎的実験技術、解析法、評価法を習得する。並行して臨床研修を行うことにより研究と臨床をつなぐtranslational researchを理解する。臨床的には、外科的技術、外科的処置、内視鏡的診断・治療手技を習得する。試験やレポート等に対し、講義の中での解説等のフィードバックを行う。この科目と学位授与方針との関連をカリキュラムマップを参照し理解すること。

関連科目	副科目	上部消化管外科学、肝胆膵・移植外科学、胸部外科系、心臓血管外科学 その他(乳腺腫瘍学、内分泌外科系、小児外科学など)
	共通科目	消化器疾患特論(必修)

## 関連する専門医資格

日本外科学会専門医、日本消化器外科学会専門医、日本大腸肛門病学会専門医、日本消化器内視鏡学会専門医、日本内視鏡外科学会技術認定医

## キャリアパス(モデルコース)

